

再評価実施事業調書

番号	3	事業名	河川事業		路線又は箇所名等	二級河川 海老川水系 海老川, 飯山満川	
事業所管課			河川整備課		事業主体		千葉県
事業化年度	昭和51年	用地着手年度	昭和51年	工事着手年度	昭和51年	再評価の理由	再々評価
費用便益比 B/C	1.44 [6.67]	総費用 (現在価値)	249.3億円 [1,290]	総便益 (現在価値)	360.3億円 [8,612]	基準年	平成25年

(費用便益比は、海老川、飯山満川の事業を合わせて表示。 裸書：残事業、[]：全体事業)

<p>事業概要</p> <p>(目的)</p> <p>海老川流域では、昭和30年代後半からの市街化の進展に伴い浸水被害が度々発生したため、昭和51年度から下流区間の河川改修に着手、河口から富士見橋下流区間までの暫定整備が完了、治水安全度の向上が図られた。しかし、未だ時間50mm相当の治水安全度は確保されておらず、下流域に位置する船橋市街地を洪水から防御するため、治水安全度を確保する。</p> <p>また、支川の飯山満川流域では、市街化の進展及び船橋市施行の飯山満土地区画整理事業等流域内開発による流出増に対応するため、時間50mm相当の治水安全度を確保する治水対策を行う。</p> <p>(主な実施内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河道改修(河道拡幅、掘削、築堤) 海老川(2,670m), 飯山満川(2,800m) ・調節池整備(掘削、築堤、越流堤整備) 海老川調節池, 飯山満川防災調節池 										
<p>事業の進捗状況(3事業合計)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 20%;">全体計画(億円)</th> <th style="width: 20%;">投資事業費(億円)</th> <th style="width: 20%;">残事業費(億円)</th> <th style="width: 20%;">進捗率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>627.2</td> <td>328.3</td> <td>298.9</td> <td>52.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：海老川における河川激甚災害特別緊急事業、治水緑地事業の分は含まない</p>		全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)	全体	627.2	328.3	298.9	52.3
	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)						
全体	627.2	328.3	298.9	52.3						
<p>社会経済情勢等</p> <p>① 流域状況</p> <p>海老川は、船橋市の北部丘陵地に源を發し、南流しながら船橋市街を貫流して東京湾に注ぐ流域面積27.12km²、の二級河川である。飯山満川は海老川の左支川で、その流域面積は5.45km²である。首都東京に近いことから、高度成長期にはこれら流域において市街化が進展した。海老川下流域は船橋市街地になっていること、また、飯山満川流域では平成8年の東葉高速鉄道の開通や区画整理事業が計画され、今後も人口・資産の集積が見込まれることから、治水安全度の向上は必要不可欠である。</p> <p>② 主な水害状況(海老川流域)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">・昭和59年7月(大雨)</td> <td style="width: 33%;">・昭和61年8月(台風10号)</td> <td style="width: 33%;">・平成8年9月(台風17号)</td> </tr> <tr> <td>浸水家屋 2,064戸</td> <td>浸水家屋 2,426戸</td> <td>浸水家屋 22戸</td> </tr> <tr> <td>浸水面積 35ha</td> <td>浸水面積 81ha</td> <td>浸水面積 63ha</td> </tr> </table> <p>③ 投資効果</p> <p>・浸水戸数 1,160戸[3,144戸] ・浸水面積：101ha[215ha] (裸書：残事業、[]：全体事業)</p> <p>④ その他(関連事業)</p>	・昭和59年7月(大雨)	・昭和61年8月(台風10号)	・平成8年9月(台風17号)	浸水家屋 2,064戸	浸水家屋 2,426戸	浸水家屋 22戸	浸水面積 35ha	浸水面積 81ha	浸水面積 63ha	
・昭和59年7月(大雨)	・昭和61年8月(台風10号)	・平成8年9月(台風17号)								
浸水家屋 2,064戸	浸水家屋 2,426戸	浸水家屋 22戸								
浸水面積 35ha	浸水面積 81ha	浸水面積 63ha								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">対応方針(案)</td> <td>事業を「継続」し、計画的に事業の推進を図る。</td> </tr> </table>	対応方針(案)	事業を「継続」し、計画的に事業の推進を図る。								
対応方針(案)	事業を「継続」し、計画的に事業の推進を図る。									

再々評価事業に関する調書

番号	3	事業名	河川事業	路線又は箇所名等	二級河川 海老川水系 海老川, 飯山満川
事業化年度	昭和51年	用地着手年度	昭和51年	工事着手年度	昭和51年

【再々評価(H20年度)の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成20年度	供用開始年度	平成42年度	対応方針	継続
B/C	3.02	総費用	244.2億円	総便益	737.9億円

再評価時の委員会の意見及び当時の状況
○継続することが妥当である。

再評価時の進捗状況及び再評価時想定5年後の進捗状況

	計 画	進捗状況 (H20)
事業費	475億円	251.81億円 (53%)
うち用地補償費	-	-
うち工事費	-	-

【再々評価 (H25年度) の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成25年度	供用開始年度	平成42年度	対応方針	継続
B/C	1.44 [6.67]	総費用 (現在価値)	249.3億円 [1,290]	総便益 (現在価値)	360.3億円 [8,612]

(費用便益比は、海老川・飯山満川の事業を合わせて表示。裸書：残事業、[]：全体事業)

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況 (H25)
事業費	627.2億円	328.3億円 (52.3%)
うち用地補償費	290.8億円	215.9億円 (74.2%)
うち工事費	336.4億円	112.4億円 (33.4%)

再評価後の
経過
及び
処理状況

平成21年2月 海老川流域懇談会 再評価 (継続が妥当である)